

「JENESYS2.0」
2017年度中国青年代表团
訪問日程 平成30年1月29日（月）～2月2日（金）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した2017年度中国青年代表团計57名が、1月29日から2月2日までの4泊5日の日程で来日しました。（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会 副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表团は東京・群馬の行政・農業に関する自治体・企業・関連施設などへの訪問及び関係者との交流を通じて、専門分野への理解と日本の青年や市民との親睦を深めました。また、歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

なお、1月28日には在中国日本国大使館において訪日前壮行会が開催され、北京を訪問中の河野太郎外務大臣が出席し、挨拶を行ったほか、同代表团らと交流しました。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/c_m1/cn/page4_003697.html

2 日程

1月28日（日）

共 通：訪日前壮行会

1月29日（月）

共 通：羽田空港より入国、皇居二重橋見学、オリエンテーション、歓迎会

1月30日（火）

共 通：群馬へ移動、高崎だるまの絵付け体験

公務員グループ：群馬県の産業振興に関する講義及び群馬産業技術センター視察

農村青年幹部グループ：原田農園視察

1月31日（水）

公務員グループ：世界文化遺産 富岡製糸場見学、高崎市高浜クリーンセンター視察

農村青年幹部グループ：群馬県の農業振興に関する講義、道の駅川場田園プラザ視察

共 通：和風旅館での日本文化体験

2月1日（木）

公務員グループ：株式会社秋葉ダイカスト工業所視察

農村青年幹部グループ：世界文化遺産 富岡製糸場見学

共 通：東京へ移動、商業施設視察、歓送報告会

2月2日（金）

公務員グループ：国会議事堂視察

農村青年幹部グループ：中央防波堤埋立処分場視察

共 通：日本科学未来館見学、羽田空港より帰国

3 写真
〈共通〉



1月29日 皇居二重橋見学（東京都）



1月29日 歓迎会で訪日活動への期待を語る
王占起団長（東京都）



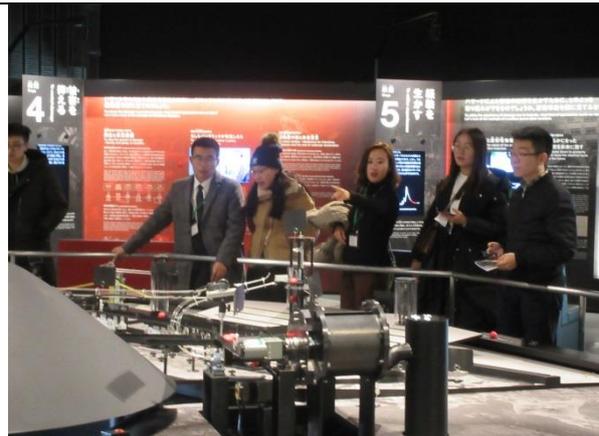
1月30日 高崎だるまの絵付け体験(群馬県)



1月31日（公務員グループ）
2月1日（農村青年幹部グループ）
世界文化遺産 富岡製糸場見学（群馬県）



2月1日 歓送報告会で訪日の成果を発表
（東京都）



2月2日 日本科学未来館見学（東京都）

〈公務員グループ〉



1月30日 群馬県の産業振興に関する講義
及び群馬産業技術センター視
察（群馬県）



1月31日 高崎市高浜クリーンセンター
視察（群馬県）



2月1日 株式会社秋葉ダイカスト工業所
視察（群馬県）



2月2日 国会議事堂視察（東京都）

〈農村青年幹部グループ〉



1月30日 原田農園視察（群馬県）



1月31日 群馬県の農業振興に関する講義
（群馬県）



1月30日 道の駅川場田園プラザ視察
(群馬県)



2月2日 中央防波堤埋立処分場視察
(東京都)

4 参加者の感想（抜粋）

〈公務員グループ〉

○最も印象深かったこと：

日本ではごみ箱が少なく、ごみ箱を探すのはとても難しい。中国のようにどこにでもあるわけではない。到着した初日はこれに慣れず、不便に感じた。だが、どこもかしこも、企業であれ工場であれホテルであれ、日本人のごみ分別の意識はとても高く、自覚して行動している。この点は、中国の観点と異なる。中国では多くの人がごみとは無用無価値のものととらえているが、日本人の目にはごみは「宝庫」なのだ。ごみは宝に変わる宝の蔵であり、厳格な分別によって、多くのごみは不用品から貴重品に変わり、リサイクルもできる。さらには、廃棄家電からレアメタルも取り出す。もちろん、先進的な技術がなければ効率的に取り出せない。実際、ごみ箱を設置しないことはまさに日本人の環境意識の高さの具体的な表れであり、ごみ箱がないからこそ大事さが分かって、むやみにごみを捨てなくなるのだ。ごみ箱があれば、人々はいつでもごみを捨て、美観も損なう。

帰国後、周囲に伝えたい情報：

日本人の環境保護と節約の意識は骨の髄まで浸透しており、外でお菓子を食べてもそのごみはカバンに入れて持ち帰り、家で処理をする。日本では子供の頃から環境保護の教育を受け、ごみ分別の方法も知っており、時には大人よりきちんとできる！

○最も印象深かったのは、秋葉ダイカスト工業所と群馬産業技術センターの視察である。中小企業は日本の産業界の大黒柱であり、日本がイノベーションを維持している重要な支柱である。一介の小さなダイカスト工場でも、技術に磨きをかけ向上を重ね、製品部品に常に改良を行っている。それぞれの中小企業がみな、日本全体の発展の中で“ボルト”の役割を發揮しているといえる。彼らは大企業と比較すれば、資金面での劣勢は明らかであるが、技術革新の面では地に足をつけ、日本が「製造大国」を維持するために取り替えのきかない役割を果たしている。

さらに、日本政府のイノベーション奨励制度も中小企業の発展とイノベーションをサポートしている。日本政府は中小企業に的を絞って支援する産業技術支援機構を各地に設置し、中小企業に技術や経営など全方向の支援を提供している。この方法も、我々にとって有益な啓発となった。

- 1. 都市計画や設計において、ヒューマンケアなものが非常に多い。例えば、ビルの窓にある赤い三角の表示(消防隊入口表示)、エレベーター内の点字、歩道の黄色い点字ブロック等々。これらは、都市管理の精緻さ、科学的発想、ヒューマンケアを体現している。
 - 2. 環境保護の重視と知識の普及水準が高く、環境愛護が国民の習慣として溶け込んでいる。
 - 3. 礼儀やマナーを重視し、常に実践するという水準が高い。国民の素養が高く、文化的、知性な印象が深く刻まれる。
- 帰国後は、自分自身の感想を親戚や友人に伝え、彼らにも日本に来て見ることを勧めたい。

○群馬県の秋葉ダイカスト工業所を視察した際、社長から、中国とはまだ十分な交流や協力をしていないが、ベトナムやタイには工場を持っている、との紹介があった。こうした優秀な企業がわが故郷に工場を建設し、わが故郷と群馬県が産業分野で交流し、私がおそのための懸け橋になれることを願いたい。

○日本を訪問し、日本社会の各界との交流や意見交換をする機会が持てた。日本が、人口や資源環境、経済発展の面で戦略を構築し、緻密な対策を立てていることがよく分かった。経済発展を維持すると同時に、絶対に環境をその代価として犠牲にはしない。ごみの削減や分別、回収などの理念と実践の手法は、我々も学び応用すべきだと思う。

○最も印象深かったこと:群馬県での高崎だるま絵付け体験。

一心にだるまに絵付けをしているご高齢の職人さんから、職人魂とは何か、ということを感じ取った。中国でも「職人」という言葉をよく耳にし、日本の製造業を受け継いでいる職人魂という知識はあったが、実体験したことはない。我々が訪問した時、職人さんは真剣に熱心に説明してくれ、我々にも絵付け体験をするように言うと、すぐに自らの仕事に没頭して、こちらのことはすっかり忘れたかのような様子だ。職人さんは、「最も大事なことは、上手くできたかどうかではなく、真剣にやったかどうかだ」と語った。私は職人さんのこの言葉に深く感動した。日本の職人は皆、真剣な姿勢で自らの仕事や作り上げるものに取り組むのだろう。このことも、帰国後に周囲の人や友人に伝えたい。

〈農村青年幹部グループ〉

- 1. 日本の農業は世界の先進レベルに発展しており、その精密度やテクノロジー化、大規模化は高い水準に達している。その発展は歴史文化や風習や地域の共通認識などに裏付けされており、農業に一層の人間味を持たせている。
- 2. 日本は各行政機関が農業の発展に取り組み、責任を果たし、各部局が相互にサポートしあって、共同で農業の発展を促進している。
- 3. 人口の高齢化問題に対し、各種政策を積極的に打ち出し対応している。技術の継承と発展の問題についても、常に解決の道を模索している。
- 4. 日本は伝統文化の保護と継承を重視しており、伝統文化により一層の歴史的風格と息吹を与えている。
- 5. 日本のサービス業は細かく行き届き、礼儀が徹底している。日程も周到に組まれており、短期間のうちに日本の歴史、文化、科学技術、農業などの分野について、一通り理解をすることができた。

6. 日本の農業は、企業、農協、農家がみな責任感と強い遵法意識を持っており、生産品にQS(品質安全)認証を必要とせず、生産品に対して社会の人々が安心して居る。5日間の友好交流を通じて、日本に対する理解が深まった。日本はとても魅力的な国であり、また来日したい。

○今回の訪日を通じて、日本の農村振興策である“六次産業化”戦略を知った。また、“六次産業化”の推進におけるいくつかの効果的な手法や対策も学んだ。さらに重要な学びは、いかにして若者をひきつけ、農村回帰させるかの手法である。学び、感じたことはとても多かった。中国の農村も同様の問題に直面しているからである。日本の手法のいくつかは、まさに我々が参考にし、取り入れる価値のあるものである。川場村の田園プラザは、個人的に本当に敬服した。中国の山間部にある風光明媚な村落にとって、このモデルは疑いなく素晴らしい活路となるだろう。

○群馬県川場村で実施している“農業+観光”による発展の基本戦略及びその実施プロセスにおいて、都市と農村の交流の深まりに伴って目的を“農村が都市にサービスする”から徐々に“都市と農村の相互補助、故郷の共同建設”へと転換して行ったことが、川場村を長期的な良好な発展へと導いた。また、文化構築の面では、川場村は自身の文化の発掘を非常に重視し、農業と農産物によって川場村の文化のネームバリューを作り上げた。こうした戦略的政策調整と刷新的な発展モデルが、非常に深く印象に残った。

○今回の訪日を通じて、日本の農村の現状を学び、農村の若手労働力の流失が中国の農村と同様の問題点であることを知った。現在は効果的な解決方法はなく、頭の痛い問題である。中国には農村青年幹部政策があり、優秀な大学生を基層部分である農村に派遣しているが、日本にはこうした政策はない。日本の人々は環境保護をととても重視している。心の底からこうした意識があるという状況を、我々は学ぶべきであり、一つ一つの小さなことから行動すべきである。

○最も印象深かったこと：

1. 街や道路が非常に清潔で、食べ物や紙くずなどのごみがない。
2. 皆がとても時間を守っている。無形文化遺産の技術が素晴らしい。
3. 富岡製糸場のスマートグラスを利用した見学はとてもリアリティがあった。
4. 日本人は熱心でおもてなしがうまく、思考回路も敏捷である。

周囲に伝えたい情報：

1. 環境、衛生面が素晴らしく整っている。
2. 時間厳守の概念が強い。
3. 科学技術が常にイノベーションされている。
4. 中国の伝統文化を発揚し、中日の友好交流を強化する。

○日本の農業の工業化レベルに震撼した。日本の各種野菜や果物の品質には、さらに感嘆した。最も印象深かったのは、農家が皆食品安全の法律を厳守しているという点である。